

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000788		
法人名	株式会社 アイケア小樽		
事業所名	グループホームアイケアおたる		
所在地	〒047-0017 小樽市若松2丁目1番18号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年4月9日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは住宅地の中にあります。ベランダの大きな窓から通学する子供たちの姿、声が聞こえ入居者様の笑顔が見られます。また、主治医、訪問看護師との連携を密に取り合い、入居者様の体調管理には十分気を付けその方らしい生活をして頂ける様ご支援させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所の設備や機能性は
国道・JR駅・商店街に近いが、住宅街に位置した静かな環境にある。陽射しのよいリビング、トイレ・浴室・家具・調度品など利便性よく配置されている。
- 2) 職員の介護は
経験年数も長く、定例会議などで課題を丁寧に協議して解決に臨み、利用者一人ひとりの身心の状況に応じた、自立支援に努めている。
- 3) 運営推進会議は
年5回開催し、利用者・地域の支援者・地域包括センター職員等の参加を得て、運営上の情報を広く開示して運営の向上に努めている。
- 4) 地域との連携は
若松町会祭典では子供みこしに参加し、事業所前駐車場を休憩場所としている。ネイティブ講師による英会話のボランティア訪問も、利用者に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目配り・気配り・心配り 当事業所理念に沿ったご支援を提供出来るよう努力しております。	理念はホールやリビングに掲示し、全職員で唱和し共有している。スローガン、『仕事の基本を見直しみんなで信頼を高めよう』は、事務室に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回資源回収、若松町会祭典、町内会総会等に参加させていただいております。祭典では子供みこしに参加。ホーム前を休憩場所にして頂き、子供達の姿を見て、入居者様は大変喜ばれております。また、英会話も好評で入居者様、職員盛り上がります。	町内会に加入しており、町内会祭典・資源回収等の地域行事に参加している。ボランティア訪問も多く、特に『ヘレナ先生の英会話教室』は参加者も多く好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で意見等々を聴かせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度5回開催 運営推進会議で入居者様の状況、行事等の報告、参加者の皆様からの意見	運営推進会議は利用者・町内会役員・地域包括支援センター職員等参加のもと年5回開催し、事業所の取り組み・行事報告の他、今後の課題について協議しサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事に関しては介護保険課等々に電話を入れ相談しております。 小樽市認知症グループホーム協議会に参加。行政の理解に努められるよう努力しています。	市担当者とは、利用者相談・入居相談・ホーム運営相談等で日常的に連絡を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会開催できておりません。開催出来るように努めます。	日中は施錠していない。職員は利用者の様子をさりげなく見守り、安全面に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を取り入れたいと思っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修の場ができるよう努めます。現在、成年後見人を必要とする対象の方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭にて説明しておりますが、疑問点があればいつでも対応の旨は伝えております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置、来訪時には要望、意見等を聞くことが出来るよう努めています。入居者様の日々のご様子を介護日誌に記入、毎月送付しております。	公的機関の苦情相談窓口を案内し、意見箱も設置している。利用者の日々の様子は、介護日誌をコピーし家族に発送している。	毎日の散歩や、外出状況が家族に伝わるように、写真付き『事業所通信』の発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションから意見をくみ取るようにしている。意見があれば会議等で提案。職員の意見を聞き、できるだけ運営に反映できるよう努めております。	全体会議や個別相談など、職員の業務に対する意見等が出やすくしている。また、働く環境の整備として、職員のメンタルケアやストレスケアの場面などからも要望を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に意見を聞き、環境条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(外部研修)に参加できるように努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はありますが、特に取り組みの実績はありません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人様、ご家族様との面談の際に不安に思っている事や困っている事等を伺い安心して入居して頂ける様に心がけております。入居後も尊厳を重視し、その方らしく過ごして頂けるよう関わっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった際、十分にお話を聞く機会を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、管理者が内容を聞き、他のサービスが可能であれば調べて紹介をしたり、その方のニーズに合ったものをすすめています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援される側、支援する側という意識を持たず、日々共に生活している関係となり共同生活を喜びとして実感できるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子を介護日誌と一緒にお手紙を送付したり、面会時には往診時のお話を報告したり些細な事でも報告してホームとご家族との関係がよく保たれております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と昔から馴染みの美容室へ行かれたり、住んでおられた近くのお店へ外食に出かけたりしておられます。	利用者の生活歴や持てる力、興味や意向に応じて役割があるよう場面作りをしている。古くからの友人が訪ねて来たり、外出行事等も楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様と一緒に行動する事で日々の役割を持ち、お互いが協力し支え合える環境となっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何か相談があった時には対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人が望む事を把握し作成している。意思確認が困難な時は雰囲気、表情から思いをくみとり、作成している。	共に生活する中で一人ひとりの想いや希望の把握に努め、得意なこと、出来ることを見極め利用者本位の対応に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、以前利用していたサービス業者より情報の提供を受けて、生活歴や馴染みの生活状況を把握しケアプラン作成に十分活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での言葉、行動、健康状態の変化に留意し、本人の持っている能力を十分活かせるよう配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、必要関係者と話し合い、情報提供をもらいそれに合った介護計画を作成している。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人の記録を毎日作成し、職員全員で共有している。カンファレンスや申し送り確認しながら、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能を低下しないように毎日、体操を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席され、情報交換している。又、訪問理容や地域の消防署と連携し避難訓練を年2回実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関で受診されている。月2回の往診があり、又、訪問看護師と連携をとっている。さらに薬剤師から直接服薬等の指導を受けている。訪問歯科診療にも対応している。	週に1度の訪問看護師による健康管理、3カ所の協力病院医師が月2回訪問診療に訪れている。また個々の病状に合わせた医療機関を、受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール対応 点滴等が必要な時は医師の指示書により看護師来所により対応可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者と共に家族と連絡を取り、退院に向けてご本人が不安にならない様に退院後の注意点等を話し合い、連携を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、今現在ホームで対応等の説明を行っています。 看取りに関しても説明させて頂いております。	本人・家族の意向・要望を基に協力医療機関との連携体制を含み、重度化や終末期への方向性や指針を文書で確認している。看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、状態変化初期対応について全員が対応出来るように周知徹底を計っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関してはシミュレーションから始める予定です。 町内会にも協力をお願いしています。	消防署参加のもと年2回訓練を行っている。 地域の人の協力についても呼びかけている。備蓄品は本部と検討しているが、保管場所の問題があり準備ができていない。	火災以外の自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、緊急用の備品を入れた非常持ち出し袋の準備、ポータブルストーブ等の災害時備蓄品の保管場所の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重視した声掛けに始め、プライバシーに配慮し、記録等の管理にも十分気を付けて取り扱っています。	職員は言動に配慮しながら一人ひとりの誇りを大切にしている。書類などの個人情報管理は細心の注意をはらい、事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から思いを察し、希望に近づけられる様努めています。心地よい時間を過ごして頂ける様、会話の時間を多く持つ様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中、どの様に過ごされたら良いのか状態や思いを考え対応させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理容にて整容等行っています。外出時等は服装等対応させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事時に入居者様からの要望食を提供させて頂いております。身体状況によっては個別に調整、夏にはホームの畑で収穫した野菜が食卓に並ぶ事も多々あります。	利用者の、身体状況・嗜好・栄養バランスに配慮して作成した献立表に基づいた食事を提供している。職員も一緒に食卓を囲み、個々の嚥下状況や体調の確認をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い食事メニューを作成。水分もとって頂けるよう好みの飲み物を用意し声掛けを行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを行われております。義歯は就寝前に消毒しております。入れ歯洗浄剤は週2回使用して消毒しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促すように、声掛け、誘導を行っております。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが3カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に工夫をし、水分を取って頂き軽い運動を取り入れております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っており、入浴、シャワー浴、部分浴、清拭をし、場合によっては2人介助にて対応しております。	週に2回は入浴が楽しめるよう、一人ひとりの希望や生活習慣に応じて支援している。入浴を拒否する利用者には、声かけや時間帯を調整し清潔保持には心がけており、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、季節に合わせた調整を行い、居室で安心して過ごせるよう騒音、雑音の排除を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の説明書を読み、同時に薬剤師による薬の説明も受け理解しています。特記事項や処方内容は他職員にも都度報告と説明をし理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをはかり、ひとりひとり限りのある生活を過ごさせて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に何度かドライブ(紅葉狩り)や買い物ツアーや、外食に他の入居者様と行き、気分転換やコミュニケーションをとれるよう努めています。	季節や天候によって、庭での外気浴や近くの公園まで散歩・買い物・町内会行事の参加や、ポピの丘・きのこ王国などの外出行事を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	誕生日のプレゼントやお孫さんへのお年玉等、入居者様が希望されましたら本人のお金を使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からご家族様に電話したい事があれば、電話して楽しい時を設けています。月1回ふれあい日誌等でご家族様に報告しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼夜、大きな物音に配慮しています。フロアには飾り付けや写真などを貼り、楽しんで頂いております。玄関にも月2回地域の花屋さんに来て頂き、生けている花の様子を入居者様は楽しまれています。	居間等の共用スペースには、利用者手づくりの貼り絵・ぬり絵などの作品や、行事の写真が飾られ、整理整頓され清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに心地よい席に座り、思い思いに話をされたり、新聞を読まれたり、居室で過ごされたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談しながら安らげるよう、楽しめるよう配慮しています。	各居室は、自宅から思い出のある家具・小物・家族写真が持ち込まれ、安心の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の持っている能力を活かし、新聞たたみや、洗濯たたみなどリハビリを兼ねて行っていただいております。		